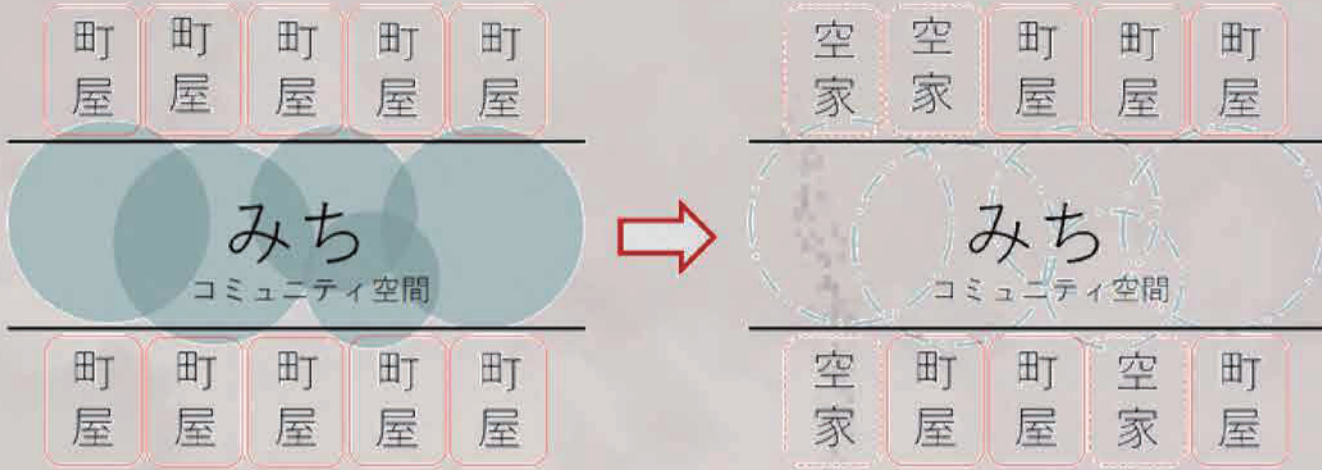


まち歩き

一、町屋の現状

町屋とは民家の一種で、商人の住む店舗併設の都市型住居である。町屋は主に2階建てで形成されており、下では高い、上では住居として、常にその建物やまちに人が存在していることが町屋の良さとしてあげられる。だが、近年では老朽化などの影響からまちから徐々に姿が消えてきている。



2023年3月12日に兵庫県姫路市野里町にある野里商店街で空き家になってしまった町屋を中心に利用したイベント「町家の日」が行われた。このイベントは戦世代にもわたって受け継がれてきた町屋の魅力を改めて感じてもらい、町屋を次の、また次の世代へと受け継いでいくきっかけへとされるように、と開催されたものだ。自身も参加したところ、想像より多くの地域住民が参加しており、賑わいを見せていた。

最近では自動車の普及が進み車社会のまちが増え、自らの住むまちに中心のない人が増えている。そのなかで、車ではなく自らの足で歩き建物や人に触れながら過ごす風景は今の時代あまり見られなくなった景色ではないだろうか。今回の選定敷地である福山市水呑町も上記のようなまちとなっている。



町家の日 (2023.3.12福本撮影)

背景・目的

本計画では広島県福山市水呑町を中心に日本の歴史的建造物である町屋の存続とまちの活性化を図る。

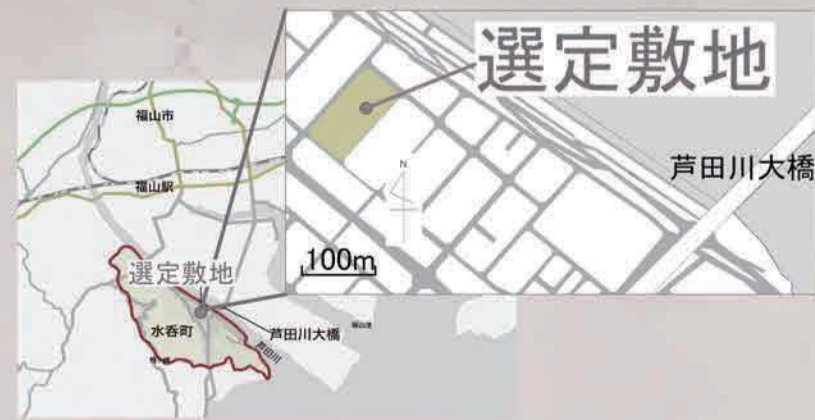


二、水呑町の現状

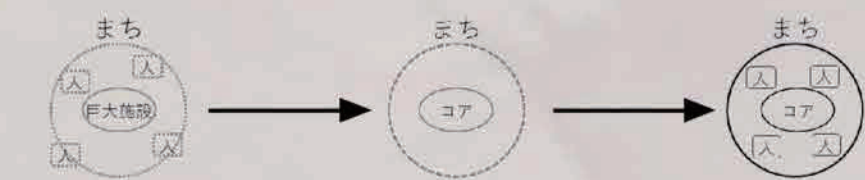
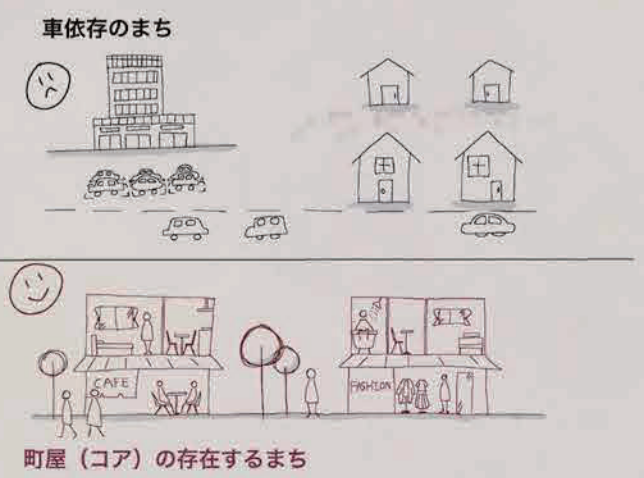
広島県福山市水呑町は、福山駅と鞆の浦の中間に位置しており、主な商業施設はスーパーやドラッグストアが挙げられる閑静な住宅街だ。選定敷地の近くには河川敷、運動公園があるが歩行者はあまりいない。車で行き、目的のスポーツをしたら車で帰る人が多い。水呑町に建つ建物は住宅が多く、「職場」となる場所は橋を渡った先にかほとんどない。それに加え車で約15分の場所には大型商業施設があることから水呑町は現在、過度な自動車依存のまちとなってきていることが分かる。



2023.6.26 福本撮影



周辺は戸建てが多い住宅街であり、建設中の住戸もいくつか確認できたが人の気配は感じられない。各々の住戸には平均でも1~2台分の駐車場が確保されていた。30分ほど敷地周辺を散策してみたところ、車は3台ほどすれ違ったが、人とは一度もすれ違わなかった。

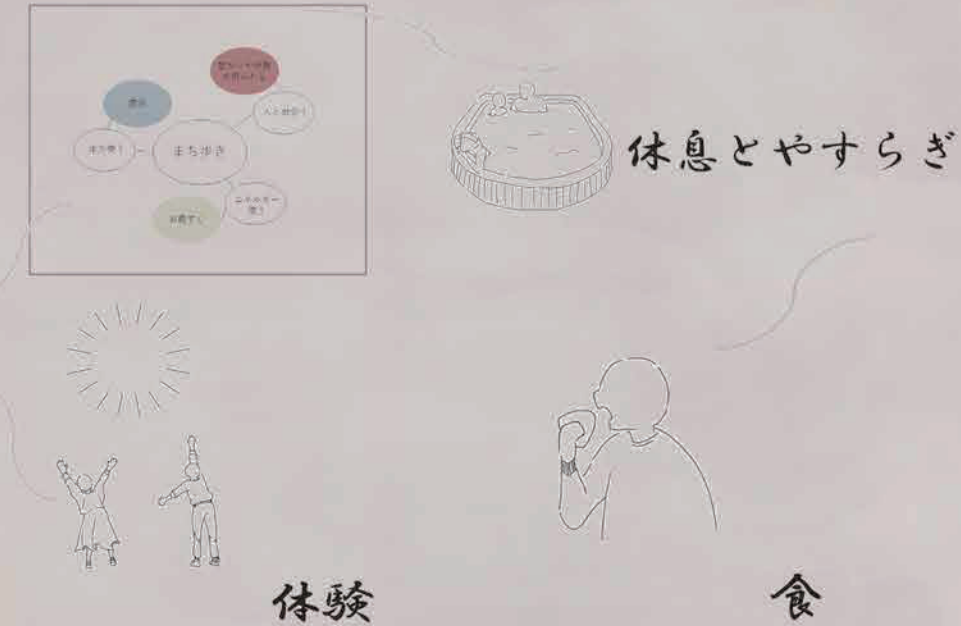


三、町屋調査結果

姫路の野里商店街での調査の結果、町屋がまちに存在することで建物や他者に接する機会が増え、住人一人一人が自らの住むまちに意識を持てるまちづくりに繋がるのではないかと考えた。だが、ただ町屋を置くだけではまた時代が進むにつれて住民がいなくなり、老朽化が進み、取り壊される。それでは堂々巡りになってしまう。もちろん、元ある形や伝統を守っていくことも大切だ。だが、時代が進むと共に生活は変わっていく。そのことを理解し、新たな暮らしを受け入れ、その時代に合わせて上手く咀嚼しつつ新しい形で建て続けていくことが今後必要となる。上記のことを踏まえ、本計画では屋敷型現代町屋を計画した。これを水呑町の「コア」として捉え、水呑町の住民を中心としたまち全体へと影響を支えられるものを計画した。

四、まち歩き

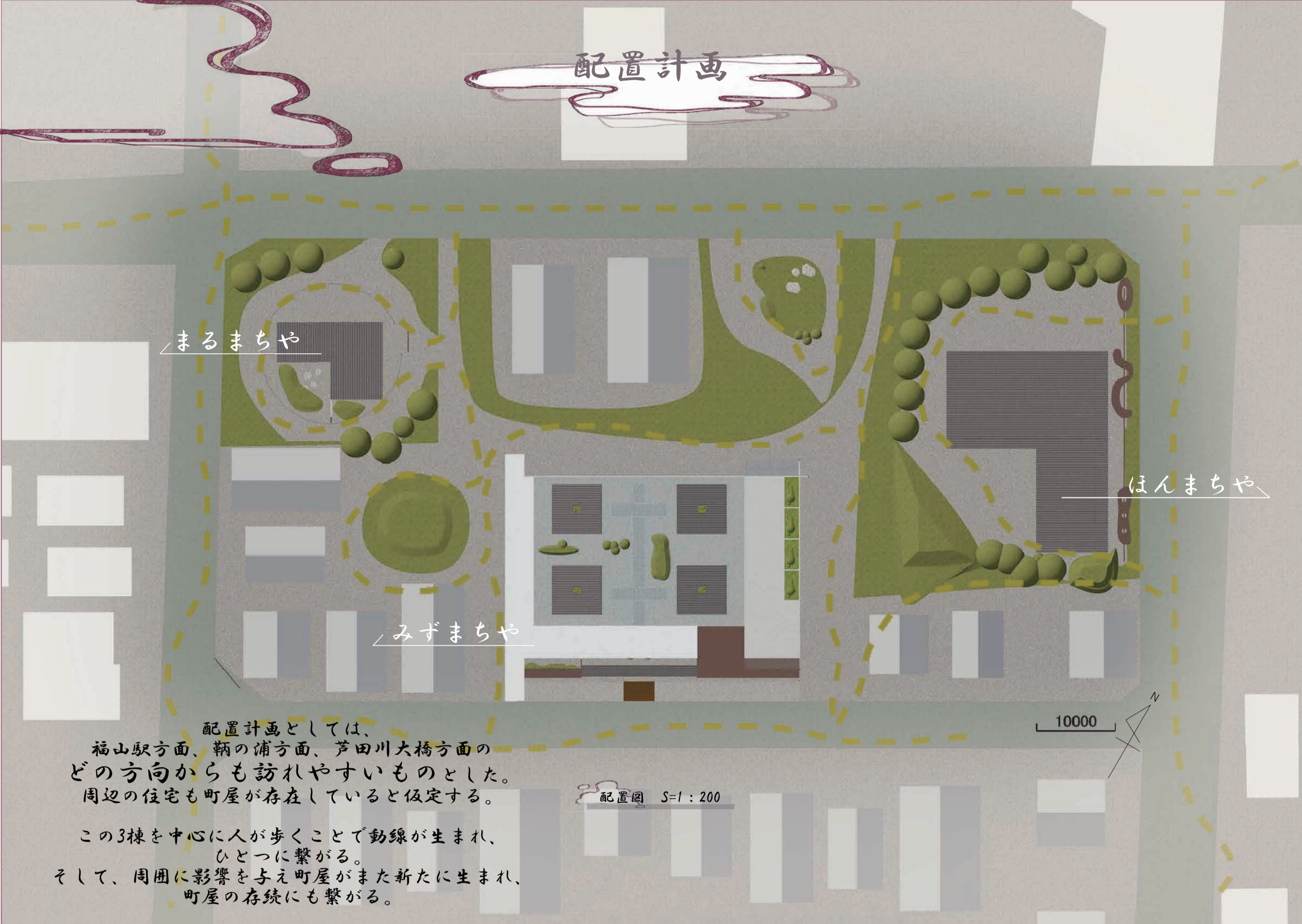
まちを歩くと人と出会い、足が疲れ、お腹がすく。この、「休息とやすらぎ」、「食」、「体験」、の3つの空間を取り入れた計3棟を計画した。



五、現代町屋の条件

- 01 そのまち(地域)に溶け込み、かつ美しい景観をつくり出すもの
- 02 住人の居る店舗併設の併用住宅であること
- 03 従来の町家の建築的特徴が2つ以上含まれてくる暖簾・奥庭など
- 04 木・植物・紙・水、等の自然素材を使用したもの

配置計画



配置計画としては、福山駅方面、鞆の浦方面、芦田川大橋方面のどの方向からも訪れやすいものとした。周辺の住宅も町屋が存在していると仮定する。

この3棟を中心に人が歩くことで動線が生まれ、ひとつに繋がる。そして、周囲に影響を与え町屋がまた新たに生まれ、町屋の存続にも繋がる。

配置図 S=1:200

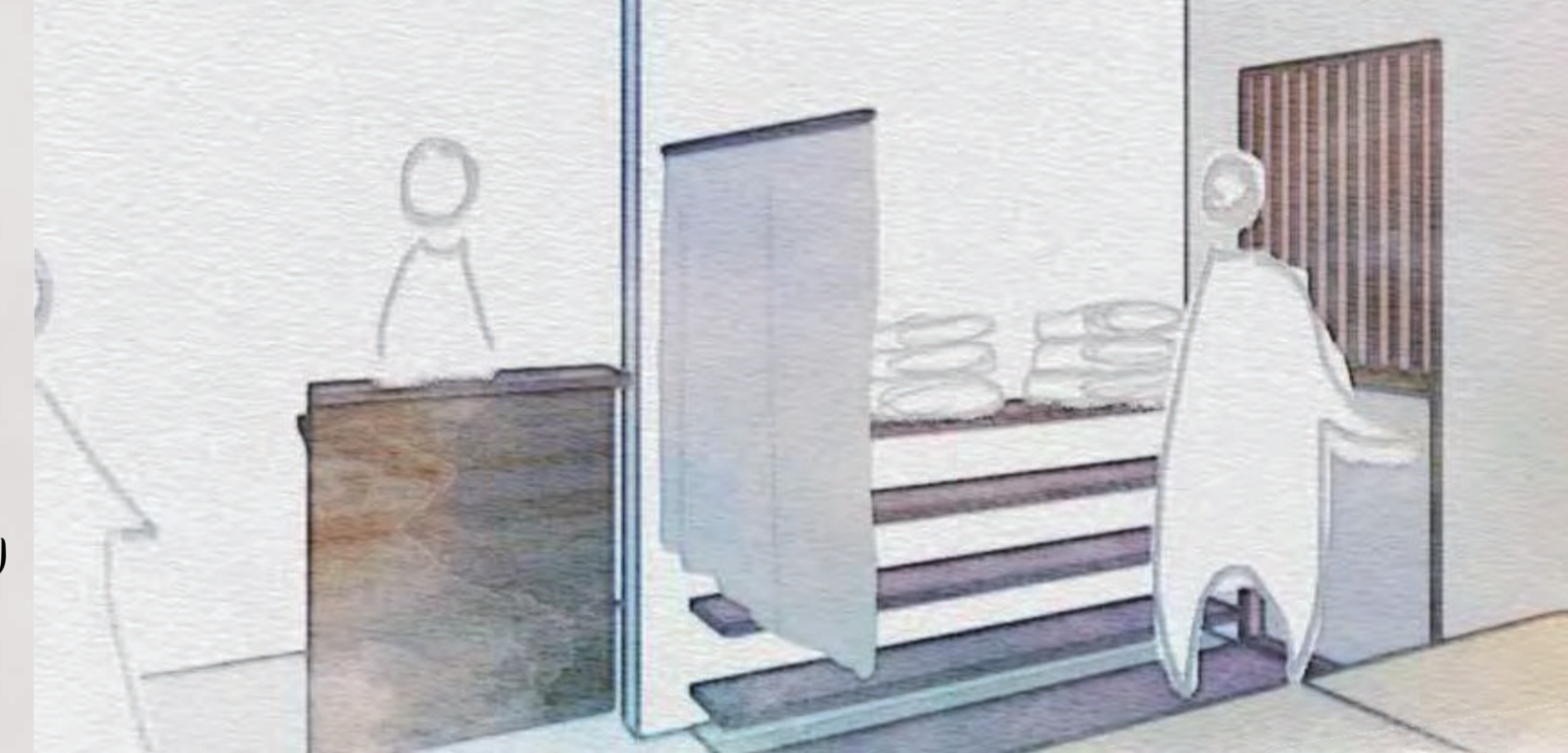
みるまちや



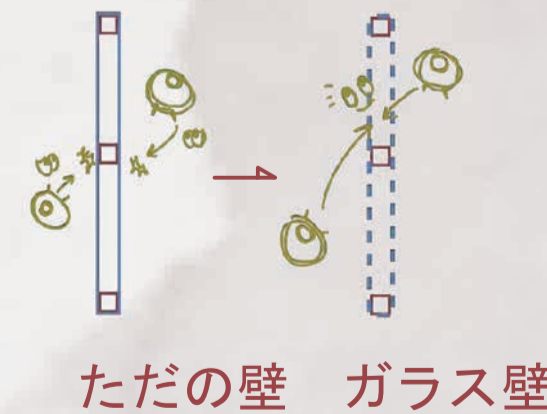
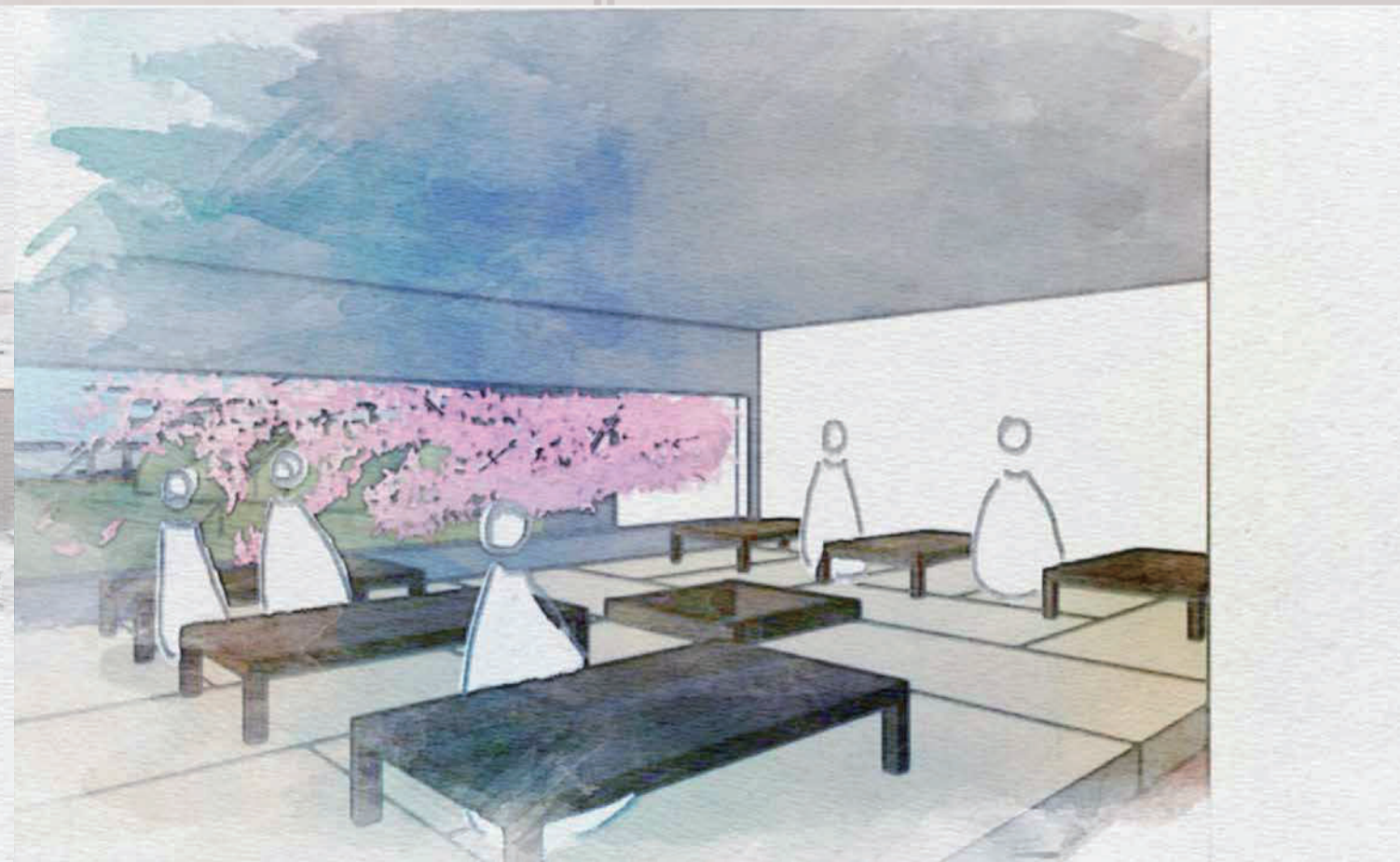
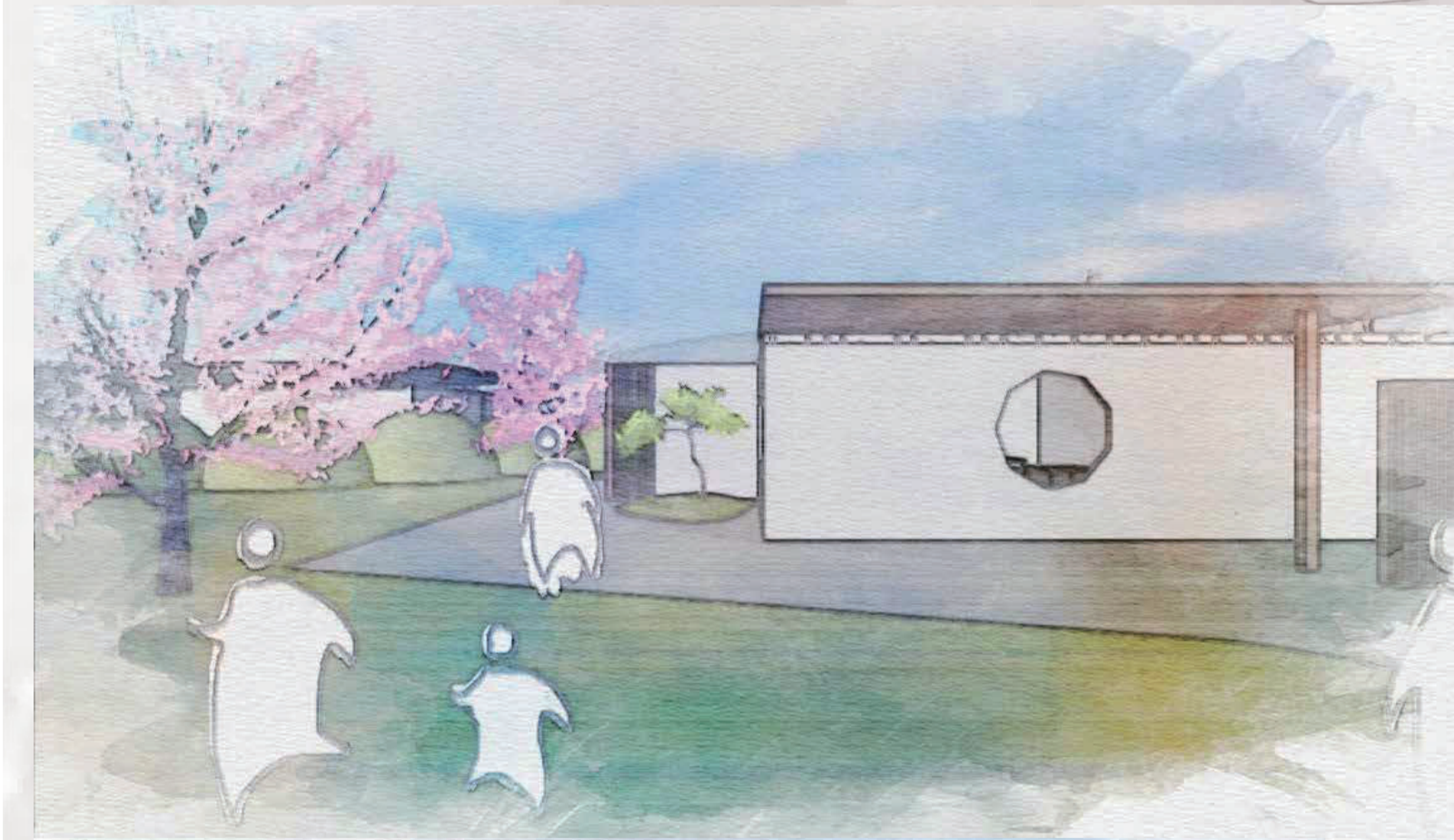
みるまちやでは個室銭湯を営む。休息とやすらぎを提供し日々の疲れを癒せる場所にする。

入り口には橋と簡易的な池を配置し、門を潜り抜ける。受付を通り過ぎれば、狭い通路から癒しの空間である銭湯へと繋がる。

みずとまちやでは湯以外にも敷地全体に水を張り巡らせており水の音が常に身近にあることで日々の鬱々とした気持ちを洗い流せるよう計画した。



まるまちや



ただの壁 ガラス壁

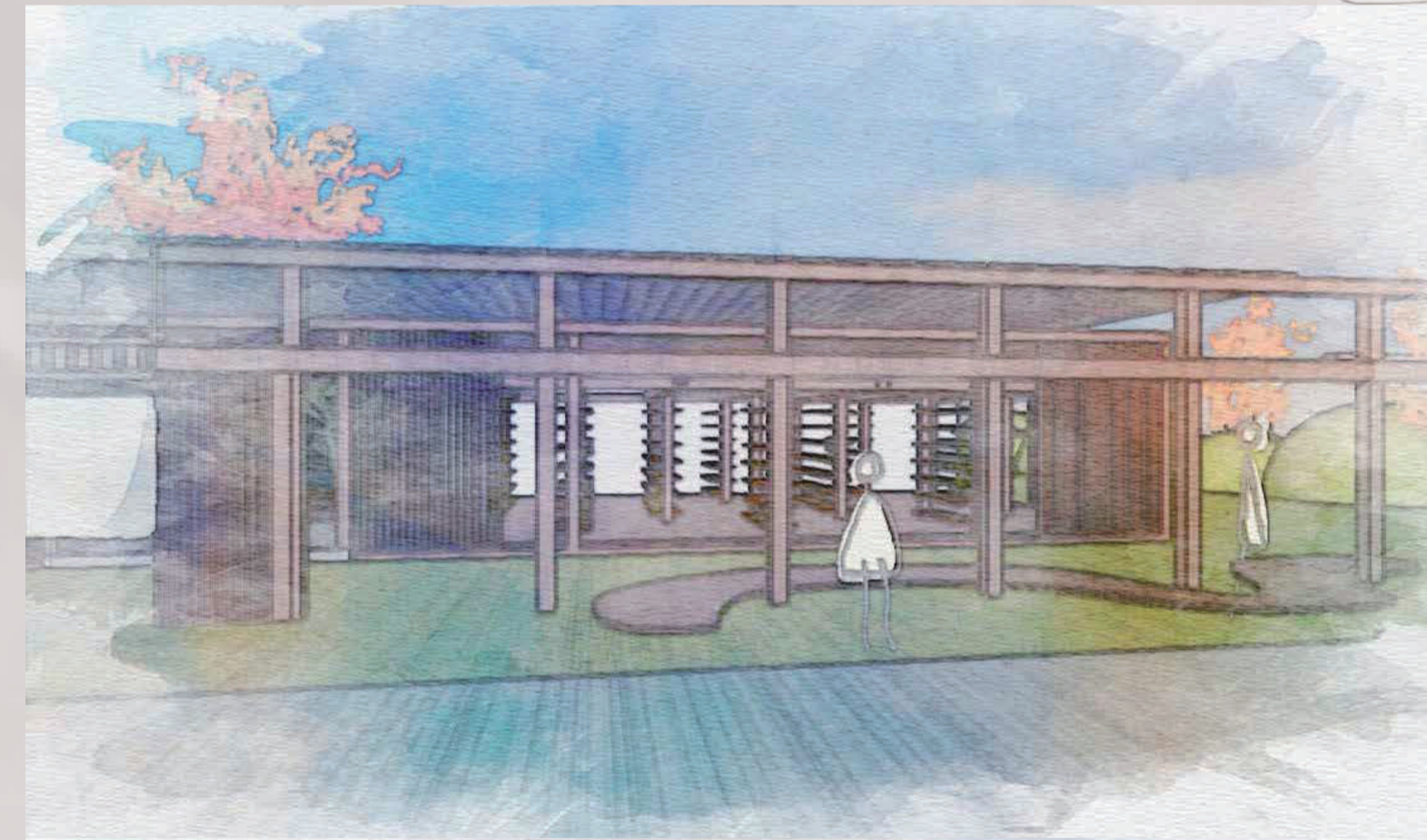
まるまちやでは定食屋を営む。食を提供することで歩き疲れた後の空腹を満たす場所にした。

まるいガラスの壁で囲まれており、外と一枚壁を隔てつつも視覚的には繋がれるものとした。

食事部屋では大きな窓と囲炉裏を設け、四季を楽しみながら食事を取れる。

住居空間には大きな庭を設けることで小さな子供が家でしゃべるよう計画した。

ほんまちや



ほんまちやでは本屋を営む。歩きたどり着いたこの場所で共通の趣味を持つ人と繋がれる場所にした。

正面壁はすべてガラス張りにし、外からでも中の状況が伝わりやすいものにした。

塀は「カベ」の部分を抜き取り柱のみの構造にすることで視覚や動線の自由度を上げた。

